

2016 年度 人権 NPO 協働助成事業報告書

人権 NPO 協働助成事業は、多様化・複層化した人権問題の解決に向けて、人権 NPO 等（人権問題解決に取り組む NPO や団体等）へ支援するとともに協働で取り組むことにより、人権問題の解決に向けた取り組みのネットワークづくりを進めています。

新たな人権問題など様々な人権問題の解決に取り組む人権 NPO 等の 4 事業に対して助成を行いました。この取り組みを「2016 年度人権 NPO 協働助成事業報告書」として取りまとめました。

これらの取り組みを知っていただくことで、様々な人権問題の解決に向けた取り組みが広がることを願っています。

-もくじ-

- ①大阪市人権絵本「てんとてん」の多言語マルチメディア DAISY 版と YouTube の作成・・・1
団体名：NPO 法人おおさかこども多文化センター
- ②思春期のセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス&ライツの意識調査と検証・・・3
団体名：NPO 法人えんばわめんと堺/ES
- ③シングルマザー&プレシングルマザーに対するトータルサポート構築のためのネットワークと仕組みづくりプロジェクト・・・5
団体名：シングルマザーのつながるネットまえむき IPP0
- ④子どもシェルターにおける自立援助事業・・・7
団体名：特定非営利活動法人子どもセンターぬっく

一般財団法人 大阪府人権協会

〒552-0001

大阪市港区波除 4-1-37 HRCビル (AIAI おおさか) 8階

TEL 06-6581-8613 FAX 06-6581-8614

<http://www.jinken-osaka.jp/> info@jinken-osaka.jp

報告書に掲載している事業についてのお問い合わせは、上記までお願いします。

2016年度人権NPO協働助成金 事業活動報告

事業名	大阪市人権絵本「てんとてん」の多言語マルチメディアDAISY版とYou Tubeの作成
団体名	NPO法人おおさかこども多文化センター



日時・期間	2016年4月15日～2017年2月28日
場所	NPO事務局、大阪市立中央図書館、翻訳者自宅
規模・人数	21名

解決したい課題	グローバル化の影響で、近年日本に住む外国籍住民は増え、それに伴い複数の言語環境で育つ子どもが増えてきている。日本での生活が長くなると母語の喪失現象も見られる。母語・継承語を大切にする機会と教材がすくない。
---------	--

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪市人権絵本は一と&は一と優秀作品（平成19年度）「てんとてん」を翻訳するために大阪市教育委員会より著作権使用許諾書を取得する。 ・「てんとてん」の著者すぎもとれいこさんと連絡をとり、9言語に翻訳する上で、作者の作品の思いや翻訳する上での注意点を聞く。 ・5月4日 翻訳者会議を開催し、「てんとてん」を翻訳する上で注意すること疑問点などを出し合う。問題になった点は、「ツン ツン ツン」「グルーン、ゲイーン」などのオノマトペの翻訳をどうするか？効果音を入れるか？バックグランドミュージックを入れるか？討議する。 ・翻訳に関する疑問点は、翻訳担当者が、メールで翻訳コーディネーターを介して翻訳者間で情報共有する。翻訳は、必ず日本語話者と母語話者がペアを組んでする。 ・6月25日 スペイン語、英語の録音（音訳）を大阪市立中央図書館録音室にて実施 ・7月22日 韓国語、フィリピン語の録音（音訳）を大阪市立中央図書館録音室にて実施 ・9月14日 大阪府人権協会にて事業の中間発表会出席 ・9月24日 ベトナム語の録音（音訳）を大阪市立中央図書館録音室にて実施 ・10月15日、16日に大阪市立中央図書館でおこなった「多文化にふれる えほんのひろば」にて、多言語に翻訳した「てんとてん」をつかったワークショップを作家のすぎもとれいこさんをお呼びして行う。 ・10月22日 インドネシア語、中国語の録音（音訳）を大阪市立中央図書館録音室にて実施 ・11月27日 ロシア語の録音（音訳）を大阪市立中央図書館録音室にて実施 ・DAISYグループふじつぼが作成したDAISYデータの音、文字の確認作業を随時行う。 ・確認できたDAISYデータを（財）日本障害者リハビリテーション協会に送り、より簡単に視聴しやすいデータにするために、EASY READERの付加を注文する。 ・3月10日 EASY READER付加付き多言語マルチメディア電子作品CDが完成 ・同時に作成した多言語「てんとてん」をYou Tubeで公開する。
------	---

<p>成果と課題</p>	<p>多言語マルチメディア電子絵本を作成することで、世界中で無料で視聴できることができる。文字と音声同期しているため、語学学習にも役に立つことができる。点がつながれば線になり、地球がひとつ、なんでもできるようになるというポジティブな題材の絵本「てんとてん」を日本語以外の9言語で翻訳でき、図書館、学校現場、国際交流関係団体などで広報されて使用されることを願っている。また母語の絵本を日本では手に入れることができない外国からきた親子が手軽に楽しめる絵本であることを願っている。</p> <p>良い絵本を多言語で翻訳をしていきたいが、絵本には著作権があるので、どの本でも翻訳できない。著作権フリーの絵本は、昔話のような民話、コンクールの優秀作品（著作権がコンクールを実施した団体にある）あるいは、作者が提供してくれる絵本に限られる。</p>
<p>今後の目標</p>	<p>多文化共生社会に関連する題材の絵本を今後も財政的な裏付けがとれ、著作権がクリアされたら、翻訳、マルチメディア DAISY 電子絵本を続けて作成していきたい。</p> <p>作成された多言語電子絵本を世界中の人々に知ってもらい使ってもらえるような広報をしていきたい。また、日本社会に、世界には、いろんな言語があり、文化・習慣があることを知ってもらう広報活動に努めたい。</p>

お問い合わせ先：NPO法人おおさかこども多文化センター osakakodomo@gmail.com

2016年度人権NPO協働助成金 事業活動報告

事業名	思春期のセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス&ライツの意識調査と検証
団体名	NPO法人えんぱわめんと堺/ES



日時・期間	2016年11月～2017年1月
場所	実施4校（各高校の視聴覚室、教室など） ・高校1年生対象2校 ・高校2年生対象2校
規模・人数	・学年を2つに分ける（240名半分・320名半分） ・クラス単位（7クラス40名ずつ）学科毎（70名×3回）

解決したい課題	思春期の中学・高校生への課題はジェンダーのすり込みによるデートDV、セクシュアルマイノリティへの偏見、適切な情報不足による望まない妊娠、性感染症や将来の不妊などがある。要因として、誤った情報を信じこんでしまったり、誰にも相談できなかつたりということがあつた。結果、自分や他者を傷つけてしまつたり、周囲が気づいた時には深刻な状況になつていたりする。
実施内容	生徒には授業前後に2回アンケートを実施。内容は、“からだや気持ちについて”や“性の意識調査”など16項目をカテゴリーに分け質問した。授業前後で変化があるかないかを調べた。また授業を見学した教師には授業後にアンケートを実施。内容は、性の課題や外部協力が有効かどうかを質問した。 生徒への授業は参加型学習でロールプレイを見てもらい、課題をグループで話し合つたり、記入したり、発表してもらつたりした。パワーポイントを使い自分の心とからだを大切にするための性の知識・情報を読み解いていく、相談する、ピアサポートなどを伝えた。
成果と課題	○成果：データを数値化することで読み解けることは、授業後のアンケート結果では自分は大切な存在だという意識（自己肯定感）が20%UPした。性のワークショップを通じて、自分も相手も大切にできるスキルを、具体的に子どもたちが知ることができた。教職員の感想にも、役割の違いが子どもたちの本音を引き出すと、協力関係の大切さが複数よりあがつていた。 ○課題：教職員のアンケート結果より、今後もこの授業を実施したい、外部との協力が役にたつた、生徒の今後役に立つと8割以上が思つているにもかかわらず、半数以上が講師料や授業時間を確保することが困難だという結果がでた。教師間の意識の差があり、性の授業を実施することがむずかしいということが、課題としてあげられている。

<p>今後の目標</p>	<p>当団体だけではなく外部の方々の協力も得ながら、データを項目別に数値化し授業前後の変化を考察していく。その結果を小冊子、パンフレットにしてメディアにもリリースし、性の自立にむけての、人権教育の必要性を知ってもらう。思春期の子どもたちが抱えている課題それが社会にどのような影響を及ぼしているか、必要な情報を子どもに伝えることで子どもたちにどのような変化がおきるのか？思春期を迎える時期より、この授業が広く浸透していけば、自己肯定感が育まれ、自他共に大切にできる社会が創造されると予想される。</p> <p>学校教育の中でこそ意義深い予防啓発教育だということを、行政や企業に伝え、一人ひとりが大切にされる社会変革のツールとして、この資料を活用していきたい。</p>
--------------	--

お問い合わせ先：NPO法人えんぱわめんと塚/ES empowerment@lily.ocn.ne.jp

TEL：072-230-5588 FAX：072-290-5589

ホームページ [「NPO法人えんぱわめんと塚」](#)で検索 フェイスブックあり

2016年度人権NPO協働助成金 事業活動報告

事業名	シングルマザー&プレシングルマザーに対する トータルサポート構築のためのネットワークと 仕組みづくりプロジェクト
団体名	シングルマザーのつながるネット まえむきIPPO



日時・期間	2016年4月～2017年2月
場所	HRCビル研修室、ホール
規模・人数	15～30人

解決したい課題	シングルマザーおよびプレシングルマザーの多岐にわたる悩みをトータルに相談できる場が現在はほとんどない。特にプレシングルマザーは、離婚に向けてやるべきことが山積しており、何から手をつければよいのかもわからず悩んでいる人も多い。抱える問題も、DV相談、子どもの養育相談、などとわかれており、忙しくて時間的余裕も経済的余裕もないシングルマザーにとっては、一つひとつクリアするために膨大なエネルギーと経費がかかる。それらを一本化し、トータルに問題解決に向けていっしょにサポートできる場を構築する。
実施内容	これまでシングルマザーの支援をしてきた団体および個人に呼びかけてネットワークを構築し、その強化とスキルアップのために連続学習会を開催。(8月28日交流会、9月25日(日)第1回学習会「生活保護について」と「クレジット・サラ金問題について」、10月23日(日)第2回学習会「就労支援について」、11月21日(月)第3回学習会「面会交流について」) また、そのネットワークを駆使して無料相談会を開催。(2月12日(日))法律、生活、就労、DV、子育ての5つの相談ブースと温灸などのリラクゼーションブース、子どものあそびスペース、またステージではヨガやダンスも行なって楽しく相談ができる一日とした。
成果と課題	これまで独自で活動していた団体や個人をネットワークでつなげ、それぞれが何かあったときには連絡を取り合って支援ができるような体制は一定できたと思う。また、無料相談会では、「またやってほしい」「楽しかった」という感想をいただき、気軽にリラックスしながら相談できる場の必要性を強く感じた。 今後は、支援者の交流をさらに深めるとともに、時代とともに変化するシングルマザーを取り巻く課題についての学習会を引き続き行い、各自のスキルアップを図ることと、多くの要望にこたえて無料相談会&リラクゼーションFESTAを年に1回は開催していきたい。そのための資金作りと持続のための仕掛けに取り組んでいきたい。

今後の目標	持続可能な仕組みづくりのために、助成金獲得は今後も続けていくが、助成金だけに頼るのではなく、今後は企業とつながっていくことを考えていきたい。それも、当団体だけではなく、せっかくのネットワークを活かし、このネットワークとして企業とコラボできる仕掛けを考えていきたい。活動を持続するための場づくりにも取り組んでいきたいと思っている。
-------	--

お問い合わせ先 : ojunko.genki@gmail.com

2016年度人権NPO協働助成金 事業活動報告

事業名	子どもシェルターにおける自立援助事業
団体名	特定非営利活動法人子どもセンターぬっく



日時・期間	2016年4月1日～2017年3月31日
場所	主に大阪府内
規模・人数	約20名

解決したい課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもシェルターに入居している期間では解決できなかった子どもの問題を、退居後も継続的に関わり続けることによって解決する。 ・シェルター退居後に新たに直面する問題について、信頼できる大人に相談できる環境を整え、支援する。 ・上記のような関わりを持つことのできる人材を確保する。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シェルターを退居する子どもの支援にあたる者を「ぬっくメイト」と称し、住居の確保、引越し作業、保護者との関係調整、就労支援、面会（食事、買い物、遊び等）などを行った。 ・ぬっくメイトとして子どもと関わる者を確保するため、シンポジウム1回、養成講座2回を開催した。養成講座では、虐待を受けた子どもたちの実情や支援の在り方を中心に、児童養護施設職員、母子生活支援施設職員、臨床心理士、大学教授等の講義を行った。
成果と課題	<p>事業の中心である退居後の支援については、居時または退居後間もない時期に、入居中に関わっていたボランティアの中からぬっくメイトを1～2名選任し、個別に子どもを担当する「コタン」を中心としたチーム体制で、退居後生じるニーズに応えられるようにした。そして、退居したほとんどの子どもについて、定期的に面会をしたり、電話連絡を取ったりするなど、継続的な関わりを持つことができた。その際、各ぬっくメイトが、それぞれの子どもの状況に応じた面会等を実践することができており、子どもとの関わり方を学ぶ養成講座の成果も見られた。</p> <p>退居した子どもの方から、コタンやぬっくメイトを頼って連絡してくることもあり、退居後も途切れない支援をするという目的は一定程度達成できた。</p> <p>今後は、ぬっくメイト間で情報共有を行い、支援の方法を広げていく必要がある。また、子どもと直接関わるぬっくメイトばかりでなく、住居の提供や就労について協力を得られるよう、他団体や事業者等と連携していく必要がある。</p>
今後の目標	<p>退居後の子どもたちと継続的な関わりを持つことを通じて、さらなる課題を見つけ、真に必要な支援を見極める。退居に際し、住居の確保、就労支援に苦勞したことが多かったため、今後は事業者等と連携する方策を見出していく。退居後直ちに就労する態勢が整わないまま退居せざるを得ない子どももいるため、長期自立支援施設の設置運営も視野に入れて活動する。</p>

お問い合わせ先：子どもセンターぬっく事務局 [TEL: 06-6355-4648](tel:06-6355-4648)